

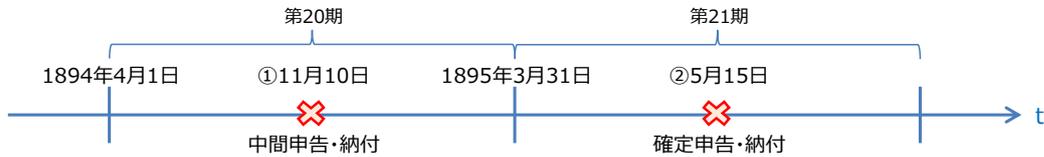
氏名

点数 点/100点

各論演習 5-1

問1)

4月1日から3月31日を一会計期間とするコーラム社の次の一連の取引に係る仕訳を示しなさい。



① 1894年11月10日 法人税等の中間申告を行い、226,000円を小切手を振り出して支払った。なお、中間納付額は仮払法人税等勘定で処理する。

② 1895年5月15日 第20期分の確定申告を行う。
第20期は、税引前当期純利益を1,250,000円であった。一方、前期末の貸倒引当金に係る損金算入額が50,000円、当期末の貸倒引当金に係る損金不算入額が85,000円、当期末の減価償却費の損金不算入額が250,000円あった。法人税等の税率は30%である。
確定税額を小切手の振り出しにより納付した。

解1)

第20期の仕訳

	借方	貸方
① 中間納付時		
② 決算整理時		

第21期の仕訳

	借方	貸方
前期分の納付時		

⋮

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 5-2

問1)

スーザン眼鏡店(株)における次の取引の仕訳を示しなさい。なお、スーザン眼鏡店(株)は消費税等を税抜方式(税率10%)を採用している。

- ① 商品を税込価格13,200円で仕入れ、代金を現金で支払った。
- ② 商品を税込価格39,688円で売上げ、代金は現金で受け取った。
- ③ 販売費8,206円(税込み)を現金で支払った。
- ④ 器具備品を4,708円(税込み)で購入し、代金は現金で支払った。
- ⑤ 本日決算により、確定申告において納付する消費税額を未払計上する。

解1)

	借方	貸方
①		
②		
③		
④		
⑤		